

平成30年上半期における交通死亡事故の特徴 【福岡県】

注1 本資料は、平成25年から平成29年までの5年間の交通事故データにより作成した。

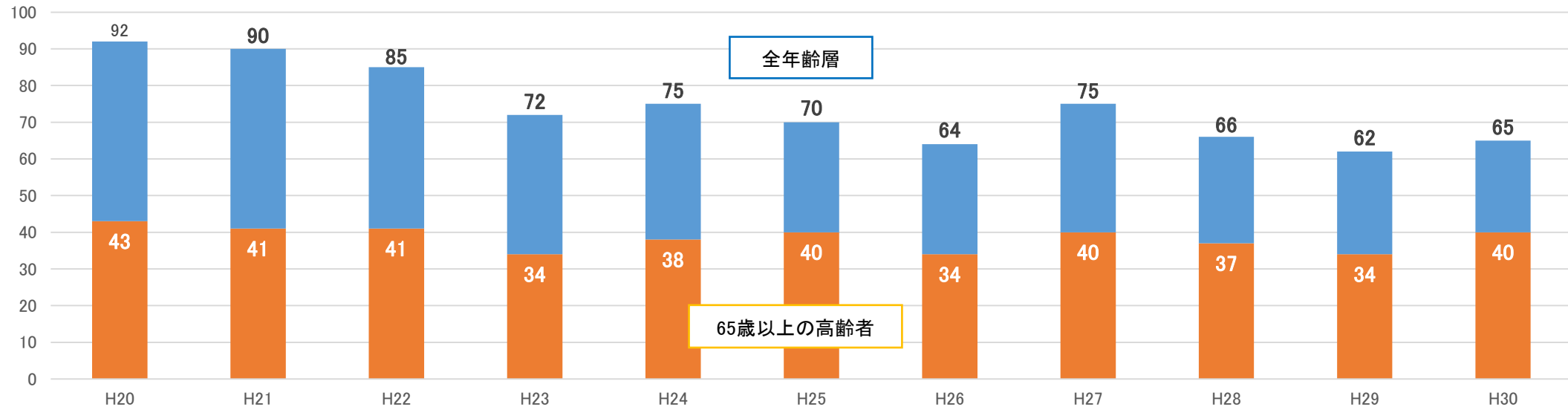
2 数値は、単位未満で四捨五入しているため、合計等が内訳の数値と一致しない場合がある。

1-1 交通事故死者数の推移（各年上半期比較）

- 平成30年上半期における交通事故死者数は65人で、10年前の平成20年上半期と比較すると、全年齢層で29%、高齢者で7%減少しており、**減少傾向**（全国では全年齢層で31%、高齢者で18%減少）
- 全死者に占める高齢者の割合は6割以上

図 交通事故死者数の推移（平成20年上半期～平成30年上半期）

交通事故死者数の推移

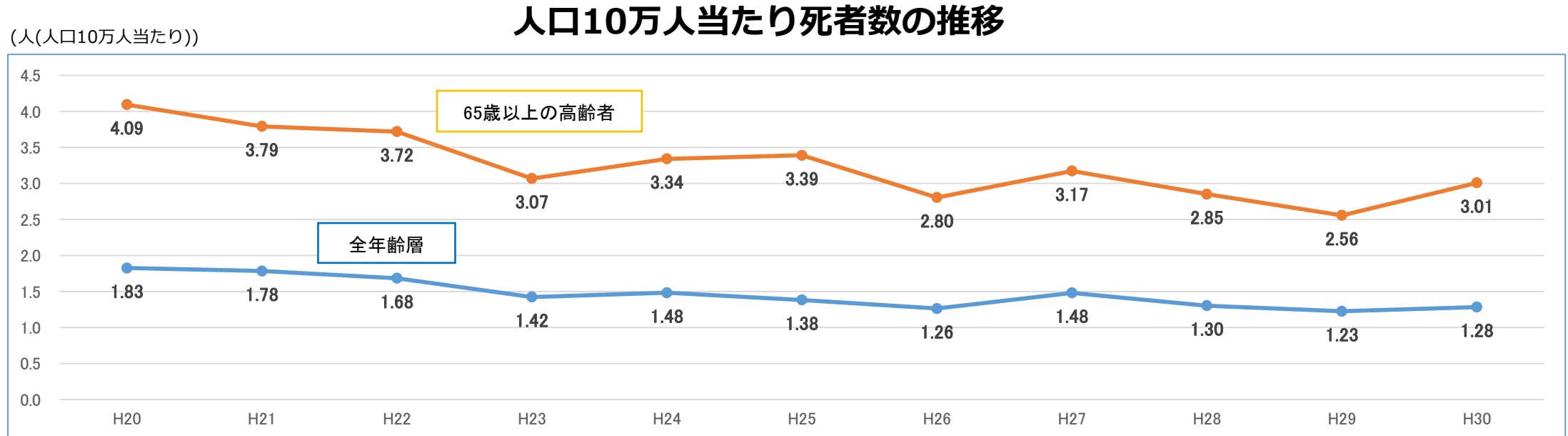


	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
死者全体に占める65歳以上の割合%	46.7%	45.6%	48.2%	47.2%	50.7%	57.1%	53.1%	53.3%	56.1%	54.8%	61.5%

1-2 人口10万人当たり死者数の推移（各年上半期比較）

- **年齢** 平成30年上半期における人口10万人当たり死者数は1.28人で、10年前の平成20年上半期と比較すると**全年齢層で30%、高齢者で26%減少**
- **高齢者の人口の10万人当たり死者数（3.01人）は、全年齢層（1.28人）の約2倍**（全国では全年齢層で30%、高齢者で35%減少）

図 人口10万人当たり交通事故死者数の推移（平成20年上半期～平成30年上半期）



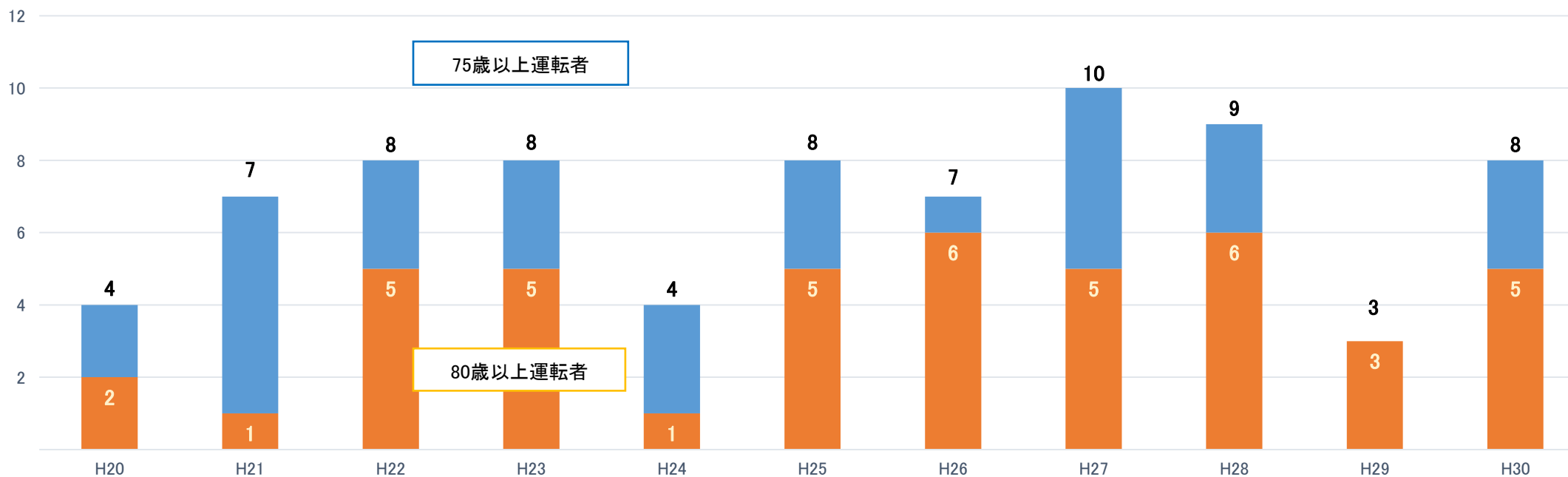
注 算出に用いた人口は、福岡県企画・地域振興部市町村支援課資料（各年12月末現在）による。ただし、平成30年は平成29年12月末の人口による。以下同じ。

1-3 75歳以上・80歳以上の高齢運転者による死亡事故の推移（各年上半期比較）

- 75歳以上、80歳以上の高齢運転者による死亡事故件数は横ばい傾向であるが、平成30年上半期は前年同期と比較すると増加（全国でも同様の傾向）

図 75歳以上・80歳以上の高齢運転者による死亡事故件数の推移（平成20年上半期～平成30年上半期）

75歳以上・80歳以上の高齢運転者による死亡事故件数



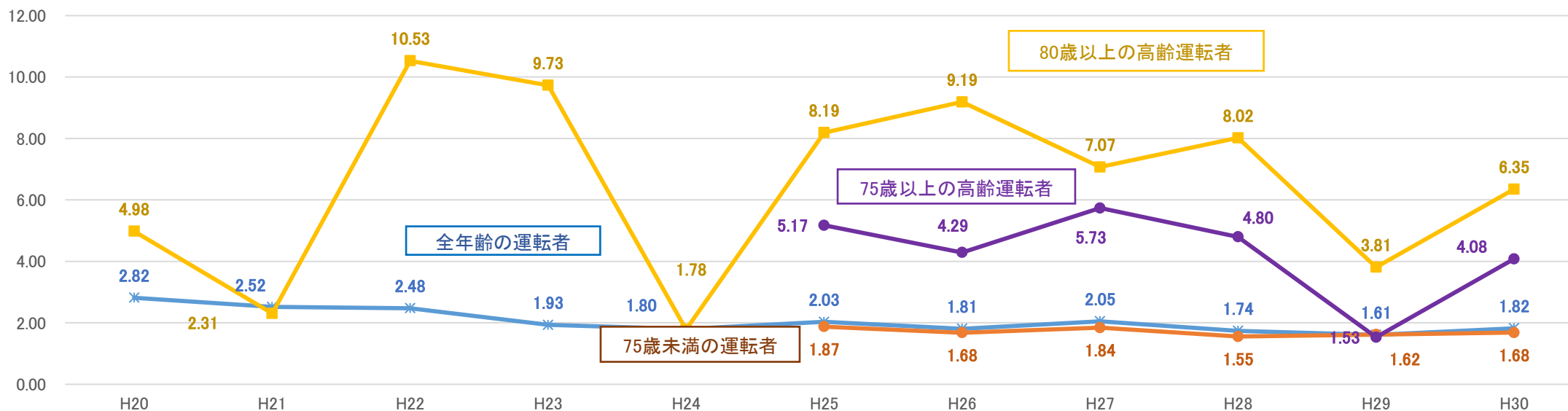
1-4 高齢運転者による免許人口当たり死亡事故の推移（各年上半期比較）

- 平成30年上半期における免許人口10万人当たり死亡事故件数は、75歳以上、80歳以上の高齢運転者ともに、前年同期と比較すると増加（全国でも同様の傾向）

図 免許人口10万人当たりの死亡事故件数（原付以上第1当事者）の推移（平成20年上半期～平成30年上半期）

高齢運転者による死亡事故件数（免許人口10万人当たり）

(件(免許人口10万人当たり))

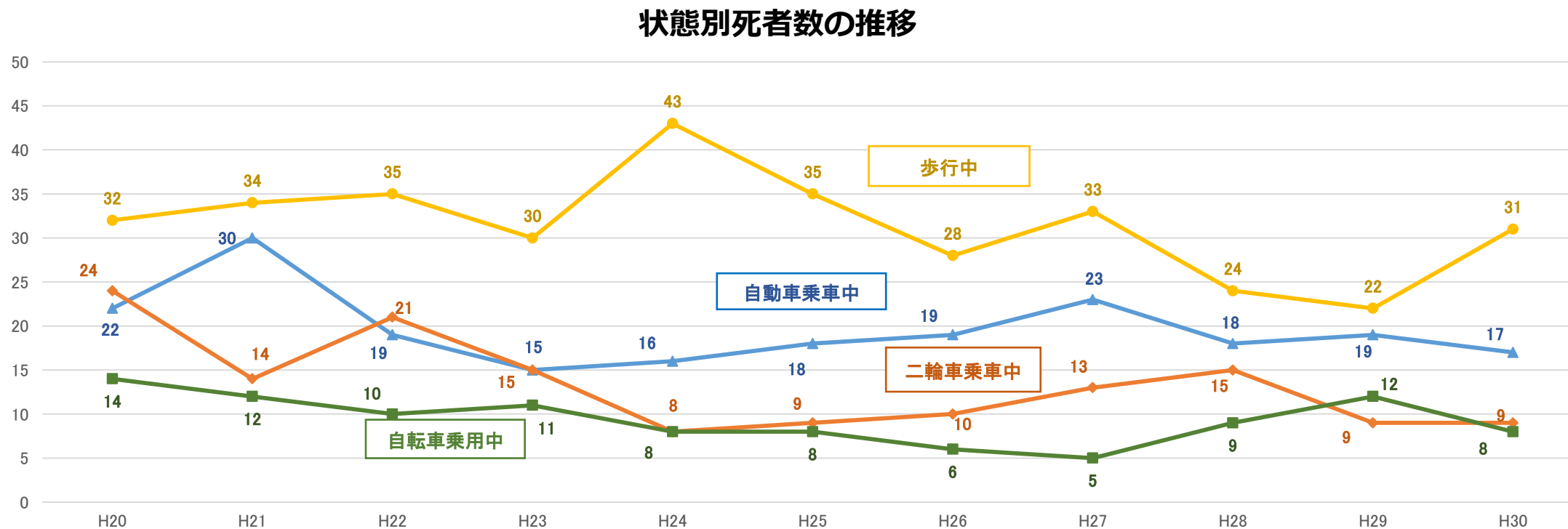


注 算出に用いた免許人口は、各年12月末の人数である。ただし、平成30年は平成29年12月末の免許人口による。（75歳未満及び75歳以上は平成25年以降で算出）

1-5 状態別死者数の推移（各年上半期比較）

- 平成30年上半期の状態別（歩行中、自動車乗車中、二輪車乗車中、自転車乗用中）の死者数については、平成20年上半期と比較すると、**いずれも減少傾向**であるが、**歩行中死者が前年同期と比較して増加**（全国でも同様の傾向）

図 状態別死者数の推移（平成20年上半期～平成30年上半期）



注 その他（リヤカー等の軽車両利用中等）の状態別を除く。

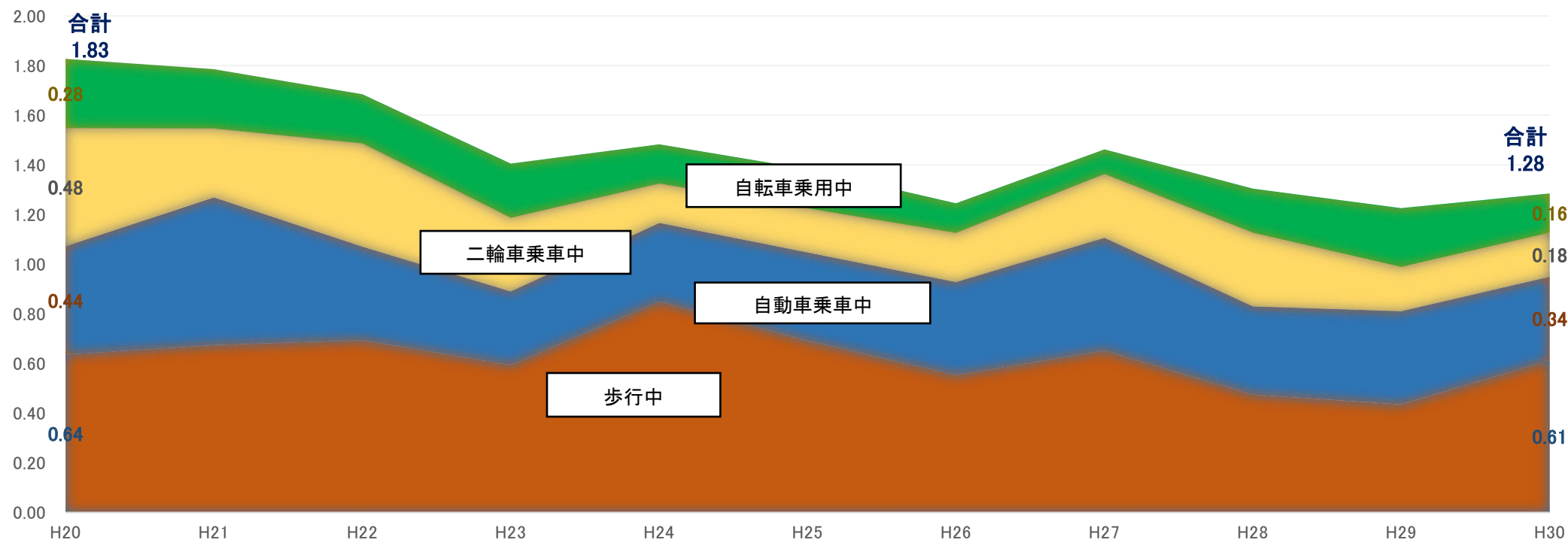
1-6 人口10万人当たり状態別死者数の推移（各年上半期比較）

- 人口10万人当たり状態別死者数では、歩行中、自動車乗車中の順で多い（全国でも同様の傾向）。

図 人口10万人当たり状態別死者数の推移（平成20年上半期～平成30年上半期）

状態別死者数の推移（人口10万人当たり）

(人(人口10万人当たり))

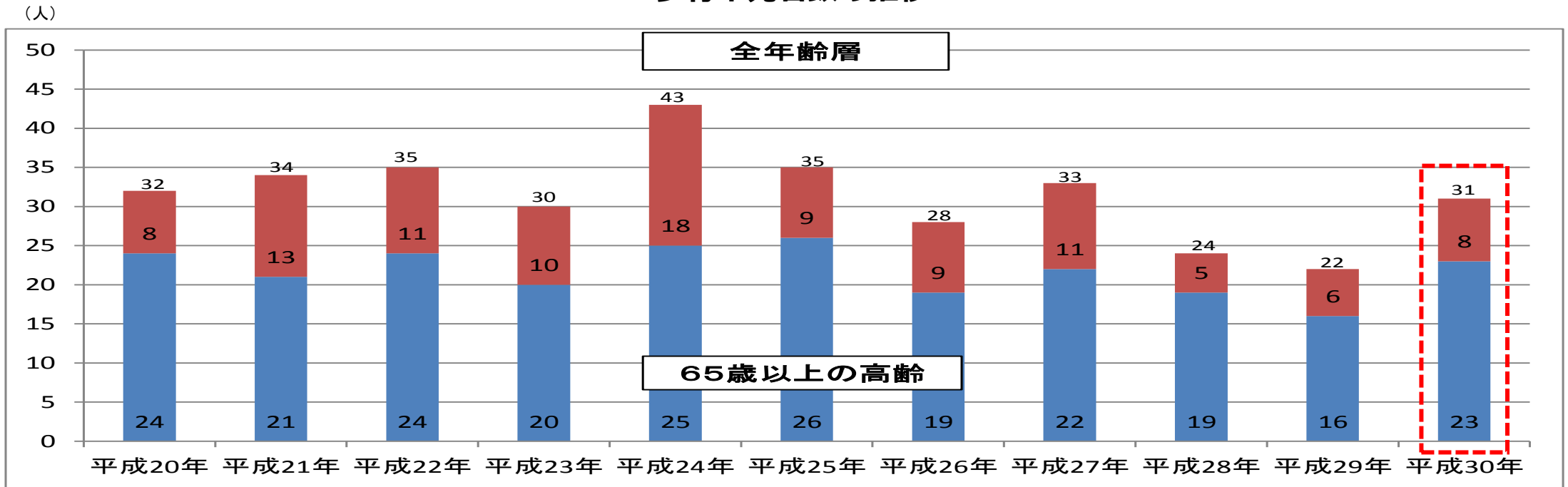


1-7 歩行中死者数の推移（各年上半期比較）

- 平成30年上半期における歩行中死者は31人で、前年同期と比較すると増加
- 歩行中死者数の内、65歳以上の高齢者は7割以上を占める。

図 歩行中死者数の推移（平成20年上半期～平成30年上半期）

歩行中死者数の推移

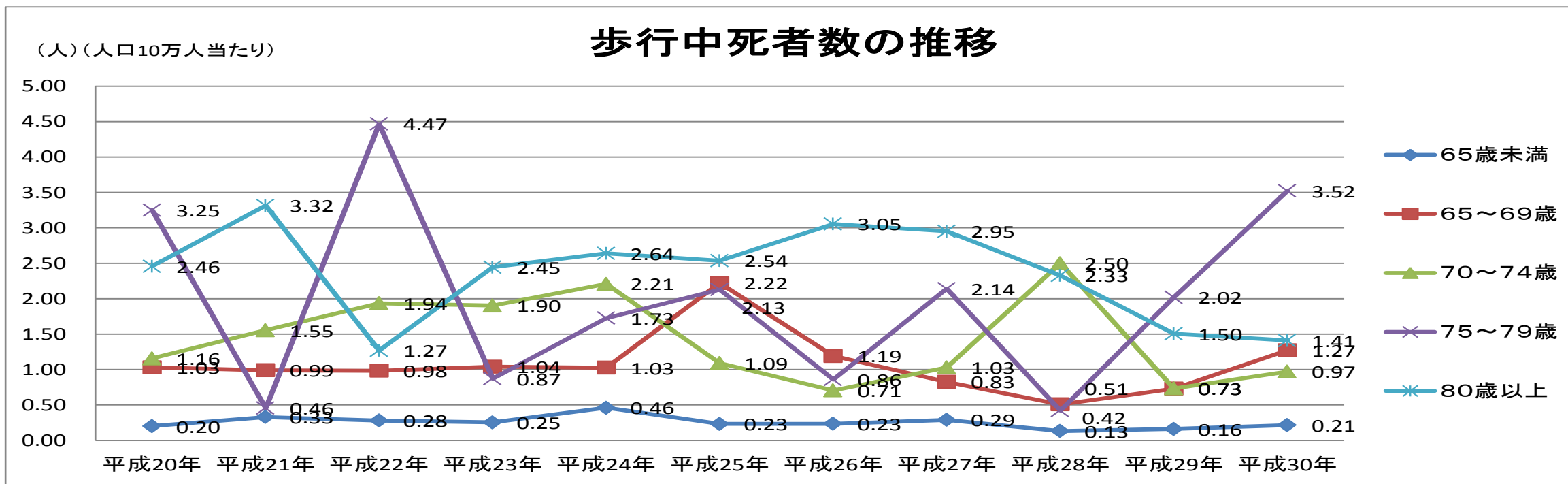


死者全体に占める 65歳以上の割合	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
	75.0%	61.8%	68.6%	66.7%	58.1%	74.3%	67.9%	66.7%	79.2%	72.7%	74.2%

1-8 人口10万人当たりの歩行中死者数の推移（各年上半期比較）

- 平成30年上半期の人口10万人当たりの歩行中死者数は、75-79歳が最も多い。

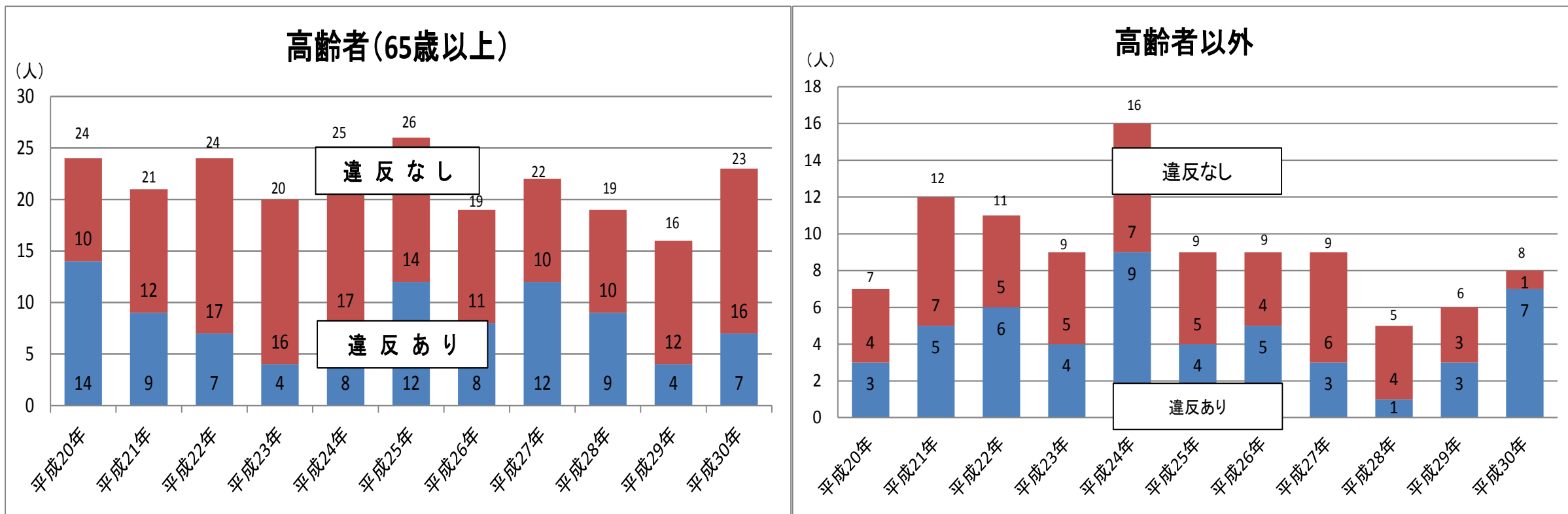
図 人口10万人当たり歩行中死者数の推移（平成20年上半期～平成30年上半期）



1-9-1 歩行中死者の法令違反状況の推移（各年上半期比較）

- 高齢歩行者の死者のうち、約4割が「法令違反有り」

歩行中死者（第1・第2当事者）の法令違反状況の推移（平成20年上半期～平成30年上半期）

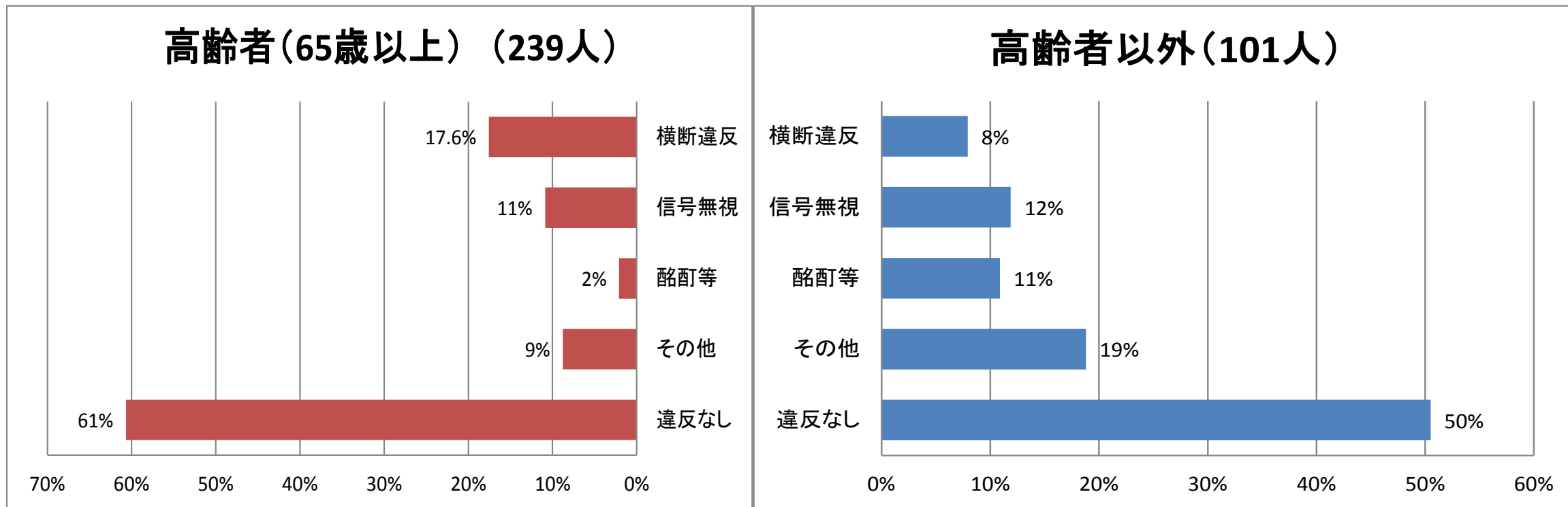


注 「違反あり」には、法令に規定のない「飛出し(安全を確認しないで道路に飛び出したもの)」、「調査不能(違反種別が不明の場合)」等を含む。

1-9-2 歩行中死者の法令違反状況の推移（各年上半期比較）

- 法令違反別では、高齢者は高齢者以外と比較して「横断違反」の割合が高い。

歩行中死者（第1・第2当事者）の法令違反別死者数比較（平成20年上半期～平成30年上半期）

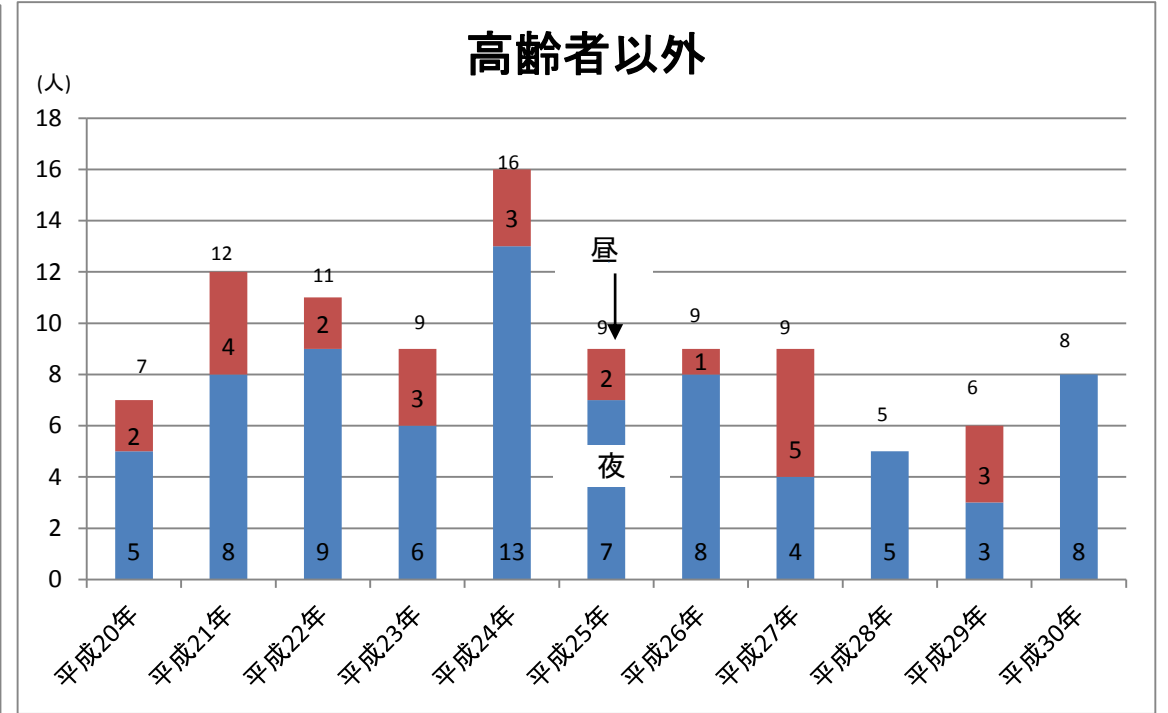
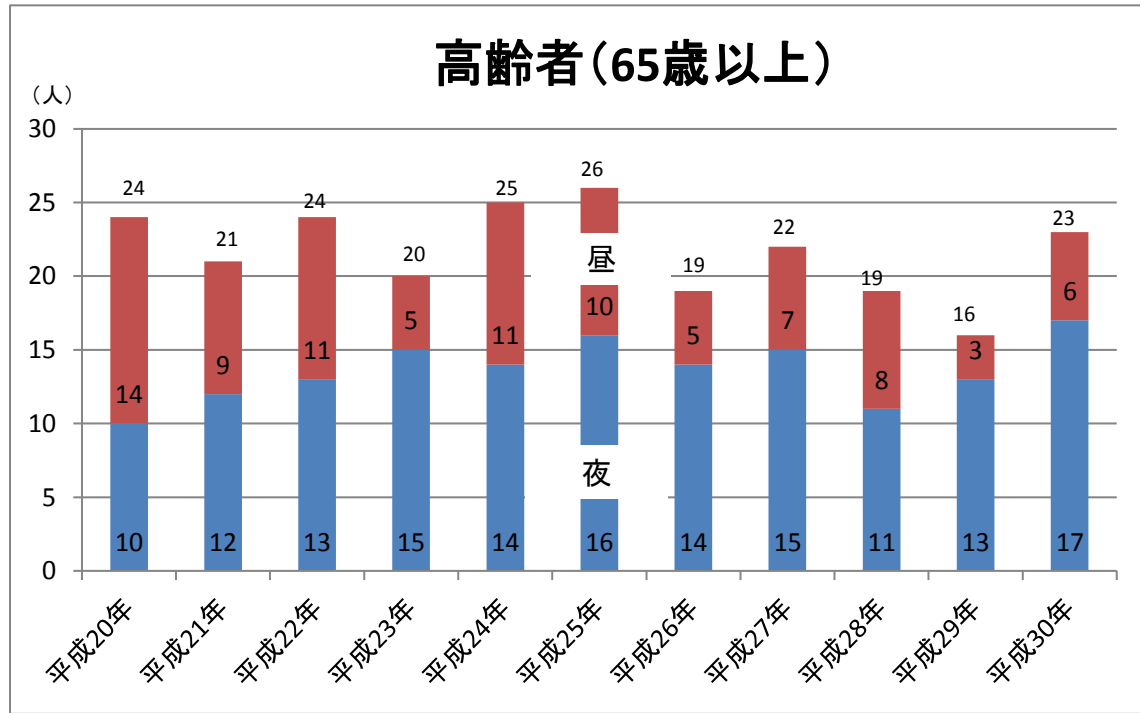


注 「横断違反」とは、横断歩道外横断、走行車両直前直後横断等をいう。

1-10 歩行中死者数の昼夜別死者数の推移（各年上半期比較）

● 平成30年上半期の高齢歩行中死者を昼夜別で見た場合、昼間に比べ夜間は約3倍

歩行中死者（第1・第2当事者）の昼夜別死者数比較（平成20年上半期～平成30年上半期）



平成30年上半期における交通死亡事故の特徴

【平成30年上半期における交通死亡事故の特徴】

- ・ 交通事故死者数は**増加傾向**（65人、前年同期比+3件）
- ・ 死者のうち高齢者が40人（+6人）で**全体の6割以上**を占めている。
- ・ 状態別では、交通事故死者のうち**約5割が歩行中**で、このうち**7割以上を高齢者が占めている**。
- ・ 昼夜別では、高齢歩行中死者の場合、**夜間は、昼間に比べて約3倍多く発生**している。